

映画化コーナー

『永遠の0』

百田 尚樹 (講談社)



司法試験に落ちて進路に迷う佐伯健太郎は、祖母・松乃の葬儀の日に驚くべき事実を知らされる。実は自分と祖父・賢一郎には血のつながりが無く、「血縁上の祖父」が別にいるというのだ。本当の祖父の名は、宮部久蔵。60年前の太平洋戦争で零戦パイロットとして戦い、終戦直前に特攻出撃により帰らぬ人となっていた。宮部の事を調べるために、かつての戦友のもとを訪ね歩く健太郎。しかし、そこで耳にした宮部の人物評は「海軍一の臆病者」などの酷い内容だった。宮部は天才的な操縦技術を持ちながら、敵を撃破することよりも「生きて還る」ことに執着し、乱戦になると真っ先に離脱したという。「家族のもとへ、必ず還ってくる」：それは宮部が妻・松乃に誓った、たったひとつの約束だった。そんな男

がなぜ特攻を選んだのか。やがて宮部の最期を知る人物に辿りついた健太郎は、衝撃の真実を知ることになる。宮部が命がけで遺したメッセージとは何か。そして現代に生きる健太郎は、その思いを受け取ることができるのか!?

2006年の初版当時から口コミで売れ続け、いまや累計発行部数350万部を超える国民的ベストセラーとなった感動作です。

映画では、岡田准一さんらが出演し、大ヒットしました。原作、映画ともにオススメです。

『白ゆき姫殺人事件』

湊 かなえ (集英社)



誰もが認める美人OLが惨殺された。この不可解な殺人事件を巡って、一人の女に疑惑の目が集まる。同期入社の子地味な女性、城野美姫。テレビのワイドショー取材により、美姫の同僚・同級生・家族・

故郷の人々がさまざまな噂を語り始める。過熱するテレビ報道、炎上するネット、噂が噂を呼ぶ口コミの恐怖。果たして彼女は残忍な魔女なのか、それとも…!?

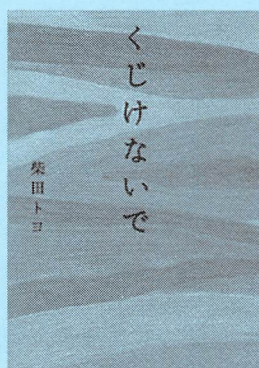
著者は「告白」「北のカナリアたち」と

映画化が続く湊かなえさんです。この春、主人公城野美姫を井上真央さんが演じ、映画化されました。

重層的な傑作サスペンス、ぜひ読んでみてください。

『くじけないで』

柴田 トヨ (飛鳥新社)



ねえ 不幸だなんて溜息をつかないで陽射しやそよ風はえこひいきしない夢は平等に見られるのよ私 辛いことがあったけれど生きていてよかったあなたもくじけずに(くじけないで)

柴田トヨさんという女性は、90歳を過ぎてから詩を書き始め、多くの人を勇気づけました。ぜひ読んでみてください。

づけました。ぜひ読んでみてください。

『デビクロくんの恋と魔法』

中村 航 (小学館)



書店員・光は、絵本作家になりたいな、という漠然とした夢があった。恋に關しては、だいたい相手から告白されて付き合うが、「やさしいんだけど…」といわれて最終的には終わってしまう。なんとなくまくいかないパターンが続いていた。そんな光には、「デビル・クロース」、略して「デビクロ」という謎のキャラに変身して、「デビクロ通信」なるイラスト入りのメッセージを添えた手製ビラを、ポストなどに無差別にばらまくという意外な一面があった。そんな光に思いを寄せる実家の鉄工所で働く溶接女子の好意に気づくことなく、ある日、光は彼女に運命の人が現れた話を囁々としてしまうが――。

この冬読みたくなる、圧倒的な多幸感に包まれた新感覚のラブ・ストーリーです。累計85万部突破のベストセラー「100回泣くこと」著者・中村航さんの書き下ろし作品です。去年の11月に映画が公開されました。

ぜひ、読んでみてください!